

阿賀野川
aganogawa E-toko dayori

えとこだより



ここにあるすべてを、
かけがえのない
「宝もん」へ。

「松浜鮭漁」場所：阿賀野川河口／撮影：山口冬人氏（JPS公益社団法人日本写真家協会会員）

もくじ ●

特集1 阿賀野川エコミュージアムを 目指す流域再生フォーラム(第7回)	2
・流域再生・光と影の宝ものがたり ・第19回「草倉銅山と近代産業検証ツアー」 ・第20回「阿賀野川の川業の盛衰・光と影」	4
特集3 阿賀の宝もん★発掘レポート ・阿賀町の「雪椿」活用 ・阿賀野川の鮭漁 インフォメーション	6
	8

地方創生の潮流に「阿賀の宝もん」をどう生かすか

「持続可能な地域づくり」へつながる
知恵が問われる中で

FM事業(※)ではこれまで、阿賀野川流域の歴史や文化に刻まれた光と影のほか、流域の旬な魅力や光輝く資源を数多く発掘・発信してきました。そんな「阿賀の宝もん」と呼ぶにふさわしい知見や資源の数々が次々と蓄積する中で、「流域の未来にどう生かしたら良いのか」が、今問われています。

例えば、阿賀野川上流域に限らず、明治から昭和の高度成長期にかけての日本では、山奥の資源やエネルギーを消費して近代化に貢献する産業が盛んでした。しかし、それらは環境汚染と表裏一体で、しかも資源が枯渇し産業構造が転換すると臨海部へと移転して中山間地域は過疎化が急速に進展しました。したがって、「地域の宝もん」を生かす場合も、一過性のヒット商品より経済や教育など地域の長期的な基盤づくりへとつなげる知恵が鍵を握ります。とはいえ、地方創生の潮流の中でも決め手となる打開策がなかなか見出せないのも現実で、今号でも紹介する「阿賀の宝もん」をめぐる様々な取組などを通して、流域で活躍する多様な主体が粘り強く模索していく日々が続くでしょう。

※FM事業とは「阿賀野川えとこだプロジェクト」のこと。詳細はP. 8参照。

この情報誌は環境省の補助を受けて新潟県が発行しています。



平成29年度パネル巡回展

まだまだ開催中！

昭和30年代まで連綿と続いた何気ない阿賀野川での暮らしが、新潟水俣病が表面化した昭和40年以降を契機に急速に姿を消していく。漁業・川砂利・筏流しなど…懐かしい川業の貴重な写真を数多く使用したパネル作品を、この機会にぜひご覧ください！



展示期間	展示施設	展示時間・備考
3/6(火)～3/29(木)	阿賀町役場鹿瀬支所ロビー	9:00～16:30 毎週土曜・日曜・3/21(水・祝)休館
3/13(火)～3/29(木)	江南区文化会館内 江南区郷土資料館	10:00～19:00 毎週金曜休館、日曜・祝日10:00～17:00

◆新潟水俣病は教科書では一次訴訟の決着までしか情報が得られず、その後の阿賀野川の安全宣言はいつ?という疑問を持っていたけど、その説明もあり長年の疑問が解けました。(新発田市・40代)

観覧者の主な感想等

- ◆映画「阿賀に生きる」を見てみたいと思った。パネルにストーリー性があった。水俣病オンリーの内容でないのが良い。(江南区・60代)
- ◆自分が子どもの頃、大人たちはこんな自然環境の中で精一杯生きて暮らして支えていたのだと、両親のことが重なった。公害で生活を変えられた方々のために努力した人々のこともよく分かった。(阿賀野市・60代)



「阿賀野川えとこだプロジェクト」とは？

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(略称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」をつむぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川えとこだ！憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

編集後記

第24号はいかがでしたでしょうか？
今号の「阿賀野川えとこだより」では、阿賀野川の川業を流域の皆さんと共に探った平成29年度のFM事業を振り返ったほか、阿賀野川流域の現在をお知らせする新しいコーナーもスタートしました！次号ではさらにこの新コーナーを充実させつつ、阿賀野川流域で始める新しい試みもお届けしたいと考えておりますので、ご期待ください。



今号表紙の写真「松浜鮭漁」

阿賀野川河口は松浜内水面漁業協同組合の漁場で、毎年秋には海から遡上する阿賀野川の鮭を定置網漁で漁獲しています。写真は、漁協さんにご協力いただき、鮭がかかった網を船に曳き揚げた瞬間を撮影した、迫力の1枚！

阿賀野川えとこだより 第24号

発行：新潟県(※環境省補助事業) 発行日：2018年3月9日
企画編集：一般社団法人あがのかがわ環境学舎(〒959-2221阿賀野市保田3866-1)

TEL.&FAX.0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

阿賀野川えとこだ!流域通信

<http://www.aganogawa.info/>





歴史

新潟を旅立ったイザベラ・バード ～その行路をたどって、北区を再発見！～

明治11年、バードは阿賀野川をくぐって新潟町に一週間滞在した後に旅立ち、通船川や新発田川、新発田街道をたどって、東区と北区を横断しました。

北宝隊隊長の本間修一さんが、当時の貴重な写真や史料をもとに、バードのたどった行路を追体験しながら、北区の歴史や現在の魅力もご紹介いたします。

「図説・東蒲原郡史 阿賀の里下巻」(東蒲原郡史編さん委員会)

講師

北宝隊代表
本間修一氏



流域食

「写真集 水と土と農民」
(亀田郷土地改良区)

阿賀野川や福島潟の 川魚などを試食

かつて流域で食されていた、今は貴重な川魚などの試食を行います。

※当日の魚種は、イベント時の漁獲状況に左右されますので、ご了承ください。

公害

貴重な写真でたどる 新潟水俣病の あらまし

昭和48年6月21日補償協定締結
(新潟医師会館ホール)新潟日報
(昭和48年6月21日)撮影写真



名前は知っていても、その経緯(あらまし)があまりに複雑すぎるため、詳しくは知らない方が多い新潟水俣病。当時の貴重な写真を見ながら、新潟水俣病の経緯を分かりやすく振り返ります。



次世代

新潟水俣病の 現地学習の 現在(いま)

発表

筑波大学大学院卒
佐々木暢さん

新潟大学教育学部を卒業後、筑波大学大学院に進学して、新潟水俣病学習の現地調査を実施した佐々木さんが、現在の公害学習についてレポートします。



オプション プログラム

環境と人間のふれあい館内の常設展示案内

16:00～

オプションプログラムとして、フォーラム閉会後の16時以降から、希望される参加者の方々に対して、環境と人間のふれあい館の案内ガイドが常設展示コーナーをご案内いたします。同館の常設展示は2015年度にリニューアルされたばかりですので、この機会にぜひご覧ください！



申込方法

申込期限 ● 2018年3月20日(火) 17時まで

- 下記必要事項をご記入の上、FAX・メール・電話にて下記宛先までお申し込みください。
 - 参加者を抽選にて決定し、当落結果のお知らせは申し込まれた方全員に宛てて郵送します。
- なお、当落結果のお知らせが23日(金)までに届かなかった方はお問い合わせ願います。

参加申込書



阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム(第7回)

※いただいた個人情報は、流域再生事業の実施を目的とした用途以外に使用することはありません。

フリガナ お名前			電話番号		
ご住所	〒		館内案内 希望に○	参加する	参加しない

お問合せ・お申込み先



一般社団法人
あがのがわ環境学舎

TEL&FAX 0250-68-5424

✉ aganogawa@niigata.email.ne.jp

特集 1

阿賀野川エコミュージアムを目指す 流域再生フォーラム(第7回)



阿賀野川の清流(昭和戦前～戦中撮影／阿賀野市千唐仁～小浮間の岸辺か?)
『おもかげ』(安田村国防婦人會大和班)掲載／小浮集落住民所蔵

流域再生・光と影の 宝ものがたり ～食・歴史・公害・次世代～

日時

2018年 3/25 (日)
13:30～16:00 (開場13:00～)

場所

環境と人間のふれあい館
(新潟市北区前新田新々圀乙364-7)

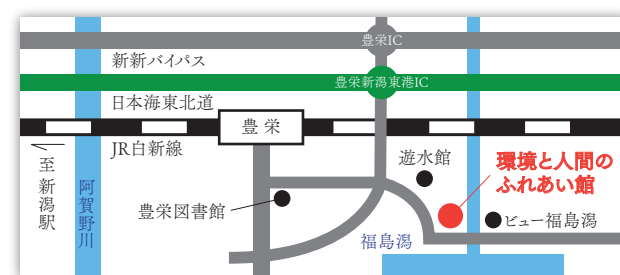
定員

40名

料金

500円
(※試食代)

(※申込方法の詳細は次ページをご覧ください)



流域再生の4テーマを振り返る

これまでFM事業で実施した流域再生のテーマを振り返ると、おのずと「食」「歴史」「公害」「次世代」の4テーマに絞られます。

そこで、今回の流域再生フォーラムでは、皆さんから「流域再生」を多面的に感じ取っていただくため、この4テーマに関連した4つの取組をご紹介します。

今回、FM事業では初めて、環境と人間のふれあい館で開催するイベントとなりますので、ぜひご参加ください！

主催 ● 新潟県

共催 ● 新潟市

後援 ● 五泉市・阿賀野市・阿賀町

企画・運営 ●



一般社団法人
あがのがわ環境学舎



シリーズ 地域再発見講座
阿賀野川ものがたり

特集
2

平成29年度 地域再発見講座の開

第20回

日時:平成29年11月23日(木)
場所:新津地域学園

当日
43名参加

貴重な写真を通じて学ぶ

阿賀野川の川業の盛衰、光と影

～川砂利・漁業・筏流し・船頭など～

当日は、新潟水俣病の発生を境に衰退していった、砂利採取や筏流しなど阿賀野川の川業について、大変貴重な写真の数々をもとに説明すると同時に、新潟水俣病の被害過程も皆さんからご覧いただきました。



山口冬人氏撮影

好評だった阿賀野川の川魚の試食



▲会場からは昔の川業や阿賀野川の文化、新潟水俣病の被害などについて、活発な質問が相次いだ。写真の質問者は、上掲写真をご提供いただいた、新潟市秋葉区在住の樋口徹さん。

参加者の 主な 感想等

- 川砂利、筏、船頭…どれも時代の大きな流れの中での、需要減や盛衰を感じました。(秋葉区・60代)
- この川の恵みが結果として人間に害を与えたことに、心からやるせないものを感じる。この悲劇が形を変えて将来に再現しないように皆さん方の活動が大いに期待されるところだと思う。(江南区・70代)
- 「写真は未来への記憶(記録)」という言葉もあるように、歴史をたどるにはこれほど格好の媒体はない。今のうちに大量のデータ収集を。今この景色を見られれば良いのだが…もうなくなった。(江南区・70代)
- 流域住民の交流を図る良い活動。歴史を理解・共有し、未来につなげる活動になれば。(東区・60代)
- 新潟水俣病と向き合う新しい地域づくりへの試み、とても有意義。今後も継続して。(秋葉区・60代)



シリーズ 地域再発見講座
阿賀野川ものがたり

第19回

催レポートをお届けします!

片桐淳氏撮影

▲赤崎山の展望台「天女の花筏(いかだ)」は、草倉銅山・鹿瀬ダム・旧昭和電工(株)鹿瀬工場など、“近代日本の光と影の縮図”が一望できるスポット。

草倉銅山の盛衰と近代 産業の光と影を学ぶプログラム

近代産業の歴史
モニターツアー

当日は、草倉・足尾・鹿瀬ダム・昭和電工の歴史を昔の写真をもとに振り返った後、実際の現地をバスで巡る研修用プログラムをモニタリングしていただき、近代化の光と影の縮図を追体験していただきました。



片桐淳氏撮影

▲草倉銅山の山中にあったお墓は、向鹿瀬にある龍蔵寺や地元の方々などと古河機械金属(株)の手で集められ、草倉銅山坑夫の無縁供養塔として建立された。

なんと団子つきだった!
例年好評の豪華な粗食弁当▶



参加者の 主な 感想等

- 赤崎山の展望台には驚きました。近代化日本の縮図を一望できるとの説明は納得。(中央区・40代)
- ガイドの説明も分かりやすく、近代日本の発展などに貢献した古河財閥や、足尾銅山と草倉銅山の関係も良く分かりました。ダム後の近代化と水俣病発生、その後の対策が良く分かった。(東区・60代)
- 光と影を良く理解でき、今回のモニターツアーに参加して良かったです。(阿賀野市・60代)
- 公害被害者の犠牲のもとに環境法規制が整備されたことを、もっと訴えていくべき(中央区・40代)
- 鉱山業が日本の発展に寄与した反面、公害問題を発生させた。どちらを重視すべきか。(北区・70代)
- 負の面だけがニュースになるが、今回のような企画を行うべきと考える。(東区・60代)

